

期 日：令和2年10月15日（木）  
高等部3年（男子25名、女子14名）  
場 所：みやざき中央支援学校体育館  
指導者：上村紘史(T1) 神野 博(T2)  
横山祐太(T3) 濱崎友樹(T4)  
錦織靖子(T5) 川崎麻衣(T6)  
宮田八十八(T7) 安治川静二(T8)  
秋吉 研吾(T9) 南崎美保(T10)  
野村 朋子(T11)

## 1 題材名 「体づくり運動」

### 2 単元の目標

- (1) 仲間とともに体を動かす楽しさや心地良さを味わい、体の動かし方を理解することができる。  
(知識及び運動)
- (2) 自他の課題を発見し、課題を解決するための方法を仲間と考え、伝え合うことができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 仲間と協力し合いながら、楽しく運動に取り組むことができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、「特別支援学校 学習指導要領 保健体育」の中から「体づくり運動」を取り上げている。体づくり運動は、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」で構成され、自他の心と体に向き合って体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる領域である。「体ほぐしの運動」では、心と体の関係に気づき、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことをねらいとしている。「体の動きを高める運動」では、ねらいに応じて体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続させる能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動を計画的に取り組むことをねらいとしている。

これらの運動を行うことにより、高等部卒業後も、様々な運動やスポーツを行っていく上での基礎・基本となる動きや態度が培われ、生涯を通じて健康で安全な生活を営むための能力を育てることができる。また、動きの基礎的・基本的な内容に取り組むことで、自分のボディイメージやボディバランスの向上、肥満等の自分の体についての課題発見にも繋がると思われる。さらに、卒業後は、運動に親しむ機会が減少して肥満の生徒が増える傾向が見られるため、卒業後も家庭でできる運動を在学中に学習し、体の動かし方を理解して運動の習慣を身につけておくことが重要である。肥満傾向以外の生徒にとっても健康の保持増進のために運動を継続して行うことが必要であり、これらのことから、高等部卒業を控えた生徒たちが本単元に取り組むことは、大変意義深いと考える。

## (2) 生徒観

### ① 運動に触れる楽しさの体験状況

本グループは、高等部3年生の通常学級30名、重複障がい学級9名、計39名（男子25名、女子14名）の学習グループである。主に知的障がいや肢体不自由のある生徒が在籍し、中には聴覚障がい、心臓疾患や精神疾患等、日頃から自分自身の健康状態に留意しながら生活している生徒も多く在籍している。

入学前の在籍については、本校中学部が15名、近隣の特別支援学校中学部が3名、地域の中学校特別支援学級が23名で、これまでの経験や学習、運動への興味関心などの実態差が非常に大きい。

本学年の生徒は、入学してから保健体育の授業の中で陸上競技、武道、ダンス、球技、水泳等を学習してきた。運動に関するアンケートでは、「運動が好き」あるいは、「どちらかというと好き」と答えた生徒が87.9%で運動が好きな生徒が多い。「運動がきらい」あるいは、「とてもきらい」と答えた生徒は、12.1%だが、その中には、「運動は、嫌いだがオリンピックやバレーボールの試合をテレビで見ることは好き」という回答もあり、自分で運動することが苦手でも、スポーツに関心のある生徒もいる。

保健体育の授業では、全ての単元において学級の枠を外したチーム編成を行っている。チームで課題解決に向けて挑戦したり話し合ったりすることで生徒同士の交流が深まり、仲間意識が高まってきた。そして、チームの中で個々に役割を与えることで、自ら役割を意識して行動する姿が見られるようになってきている。

本校には、部活動（バスケットボール部・陸上部）、放課後活動クラブ（フライングディスククラブ・卓球クラブ・音楽クラブ）があり、本グループの42.1%が運動部や運動クラブに所属し、日頃から運動に接する機会を有している。また、長期休業中の運動を記録する「やったぜ！カード」や昼休みに肥満傾向の生徒を対象として、ジョギングやダンス、軽運動を行う「健康セミナー」等を通して、自らの健康を意識して運動や食生活を考える生徒も出てきている。さらに、卒業後も継続して健康を意識する動機づけとなるよう、卒業時に毎月1日に体重計に乗って自分の体重を記録するチェックシートを配布し、20歳を迎えた際に行なわれる「新成人を祝う会」に持参してもらう卒業後の継続指導に8年前から取り組んでいる。

### ② 「知識及び運動」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

本グループの生徒たちは、出身中学校が異なることから、入学年次には総復習（学び直し）の機会として日常的に行える簡易な運動を行った。二年次は、通常学級と重複障がい学級を合わせたチーム編成で、これまで学習してきた体操の中から一人一種目体操の種目を考え、それをチーム内でまとめた「チーム体操」を行った。チーム体操では、チームでの交流が深まり、自分たちが考えた運動を自宅で行う等、生活に汎化させることができた。

また、実態別で編成したグループでは、身近にある「タオル」を使い実生活で手軽に行える運動を行った。負荷や姿勢、回数を自分たちで工夫して考え、運動が苦手な生徒も自分の体力に応じた方法で楽しく取り組むことで、運動への意欲を高めることができた。

### ③体力の状況

○令和2年度の体力テスト項目別一覧（平均値）は、以下の通りである。

	50m走 (秒)	ハンドボール (m)	立ち幅跳び (m)	握力左右平均 (kg)	上体起こし (回)	反復横跳び (回)	長座体前屈 (cm)	1000m (分) 1500m (分)
男子1年次	12.0	12.2	1.4	25.6	17.6	29.9	36.5	10.6
男子2年次	10.0	▼10.8	1.5	26.1	▼16.9	31.1	▼30.2	9.25
男子3年次	未測定	未測定	1.6	27.0	18.0	32.0	31.0	未測定
女子1年次	19.1	5.4	1.1	17.8	14.2	34.0	29.8	7.18
女子2年次	11.1	5.6	1.3	▼16.8	16.5	▼31.9	35.4	5.97
女子3年次	未測定	未測定	▼1.2	22.2	▼15.4	33.3	▼30.3	未測定

新型コロナウイルス感染症予防の為に休校が続き、50m走、ハンドボール投げ、1000m・1500m走の測定を実施することが出来なかった。生徒39名中6名の生徒は、測定困難であった。高校生の体力テストを基準とすると、総合判定がDやE判定の生徒がほとんどであることから、個人内での評価を行い、生徒一人ひとりに体力テストの個人結果をグラフ化したプリントを配布して数値の伸びや変化を視覚的に提示し、1年毎の変化を確認する場を設けた。

### (3) 学習を進めるにあたって

高等部3年生は、保健体育の授業を行うことができる最終学年である。卒業後は、それぞれの生活環境が大きく変化することが予想されるが、そのような中でも、これまで学校で学習してきた運動についての知識や技能を実生活に役立てることは、健康の保持増進と体力の維持や向上につながると考える。

よって、本単元の指導にあたっては、これまで学習したことを実生活に役立てるため、自分の体力や生活に応じた運動を考え、実生活に役立てることを目標とする。卒業後の生活を意識させた上で、自己の体力に適した運動を手軽に実施できたという成功体験を積ませることで、運動が苦手な生徒も継続して取り組もうとする気持ちを育てられると考える。

そこで本単元では、バランス良く運動を実践するために学習カードを活用し、「体の動きを高める運動」の「体の柔らかさ」、「巧みな動き」、「力強い動き」、「動きを持続する能力を高めるための運動」の4つの動きからそれぞれ運動を選択させる。また、生徒が選択する運動の強度を分かりやすく示すために本校独自に作成した「特別支援学校版ひなたプログラム」(事例集及びタブレット端末を用いた動画集)を活用する。本プログラムは、運動強度毎に☆1～☆5の5段階に設定されている(☆の数が多い程、負荷が大きい)。運動を組み立てる際には、選択した4つの運動の☆の合計がAグループは☆12以上、Bグループは☆8以上、Cグループは☆4以上になるよう条件をつけることで、実態に合った運動の負荷を分かりやすくした。また、カリキュラムマネジメントの視点では、体育理論「スポーツの多様性」や保健分野「心身の機能の発達と心の健康」等と関連付けて学習することで、より効果的な学習になるようにしたい。

本時にあたっては、導入で、健康観察及び体ほぐし運動として、チーム体操とリズム運動を行う。チーム体操は、昨年と同じ方法でチームを編成し、チームで体操を考えさせる。チーム編成の仕方や体操の作り方を昨年と同じにすることで、知的障がいのある生徒が理解しやすいようにする。また、導入の流れについては、昨年との変更を少なくすることで、変化への対応が困難な自閉スペクトラム症等の生徒には、学習の見通しをもたせ情緒の安定にもつながるようにしたい。また、新たな事にも挑戦させたいため、リズム運動を行う。リズム運動では、リズムに合わせてジャンプしたり仲間とタイミングを合わせたりする活動を通して、友だちと一緒に学習する楽しさを味わえるようにしたい。

展開では、実態別に3つのグループに分かれ、前時までにペアで組み合わせた「休日に自宅で手軽に行える運動」をグループ内で発表する。運動を発表する際にはペア毎で発表させ、発表後に対話的な活動である話し合いの時間を設定する。友だちへのアドバイスや良かったところを学習カードに記録し、それを伝え合う活動を通して、友だち同士の関わりをもてるようにしたい。

まとめでは、学習カードへの記録や自己評価を行い、それぞれのグループ付きの教師からその日のMVPを発表することで、次時への学習意欲へとつなげたい。

4 単元の評価規準 (単元の評価規準：特別支援学校高等部学習指導要領より)

単 元 の 評 価 規 準	段階	知識・運動	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	I 段階	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地良さを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と積極的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりすることができる。	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができる。	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動しようとしている。
II 段階	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わい、その行い方や方法の理解を深めるとともに、仲間と自主的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりするとともに、それらを組み合わせることができる。	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し、判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	○ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、自己の役割を果たし、仲間と協力したり、場の用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動しようとしている。	

実態別 グループ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
A 少ない支援で活動できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体を動かす楽しさや心地よさを深く味わうことができる。</li> <li>② 体づくり運動の行い方や方法の理解を深め、それらを組み合わせることができる。</li> <li>③ 仲間と自主的に関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自他の課題を発見し、よりよい解決のための方策を考えることができる。</li> <li>② 考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① きまりを守り、自己の役割を果たそうとしている。</li> <li>② 仲間と協力し、安全を確保しようとしている。</li> <li>③ 見通しをもって自主的に運動しようとしている。</li> </ul>
B 場面に応じた支援で活動できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。</li> <li>② 体づくり運動の行い方や方法を理解することができる。</li> <li>③ 仲間と積極的に関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自他の課題を発見し、解決のための方策を考えることができる。</li> <li>② 自分で考えたことを仲間に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① きまりを守り、取り組もうとしている。</li> <li>② 仲間と協力し、安全に気を配ろうとしている。</li> <li>③ 自主的に運動しようとしている。</li> </ul>
C 常時支援で活動できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師の支援を受けながら体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。</li> <li>② 教師と一緒に運動することができる。</li> <li>③ 教師の支援を受けながら、仲間と関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師と一緒に自分の課題を発見し、解決のための方策を考えようとするすることができる。</li> <li>② 教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師と一緒にきまりを守ろうとしている。</li> <li>② 教師と一緒に安全に気をつけようとしている。</li> <li>③ 教師と一緒に運動しようとしている。</li> </ul>

単元の評価規準

5 単元の学習計画及び評価計画

時間	1	2	3	4	5	6
指導内容			③【仲間との関わり】		③【仲間との関わり】	
①【きまり】		①【課題発見】		②【伝え合い】		③【自主性】
0	・オリエンテーション 1 集合・あいさつ 2 授業ルールの確認	1 チーム毎に集合・健康観察 本時の確認			1 チーム毎に集合・健康観察 2 体ほぐしの運動「チーム体操」 3 本時の確認	1 チーム毎に集合・健康観察 2 「チーム体操」「リズム運動」 3 本時の確認
10	3 グルーピング 4 体ほぐし運動 ○昨年の振り返り 「タオルを使った運動」 ・一人やペア、チームで行ない、感じ取ったことを伝え合い共有する。	3 体ほぐしの運動 ◎チーム体操を考えよう！ 4 自己の体力を分析する ・新体力テスト結果の比較 ・自分自身が得意な運動、苦手な運動を知る。 5 目標設定 ・個人のゴールイメージの設定	3 体ほぐしの運動 ◎チーム体操をつくろう！ (学習カード②に記入する。) 4 発表会をしよう！ ・チームで考えた全員体操を発表し、どのような効果があるか伝える。	3 体ほぐしの運動 ◎リズム運動をしよう！ 4 発表会をしよう！ ・チームで考えた全員体操を発表し、どのような効果があるのかまとめる。	4 体ほぐしの運動 ◎リズム運動をしよう！ ①自宅で取り組める運動を考える。 ②実際に行ってみる。 ③友だちに伝え合う。 5 長期休暇における運動への目標を決める。 6 学習カード③に記入する	4 長期休暇に向けて ①自宅で取り組める運動を考える。 ②実際に行ってみる。 ③友だちに伝え合う。 5 長期休暇における運動への目標を決める。 6 学習カード③に記入する
20						
30						
40						
45						
評価						
①【観察】		①【観察】	③【学習カード】	②【観察】	③【観察】	③【学習カード】
準備物	体育ファイル ホワイトボード・掲示物	体育ファイル・学習カード 体力テスト結果 ホワイトボード・掲示物	体育ファイル・学習カード① チーム健康観察簿 ホワイトボード・掲示物 自己評価ボード (Cグループ)	体育ファイル・学習カード② チーム健康観察簿 ホワイトボード・掲示物 自己評価ボード (Cグループ)	体育ファイル チーム健康観察簿 ホワイトボード・掲示物	体育ファイル・学習カード③ チーム健康観察簿 ホワイトボード・掲示物 自己評価ボード (Cグループ)
保健分野			心身の機能の発達に関すること			
体育理論	運動やスポーツの多様性	効果と学び方		安全な行い方		

時間	7	8	9	10	11	12・13	14 (本時)	15	
指導		③【仲間との関わり】		①【体を動かす楽しさ】				②【運動の組み合わせ方】	
思	①【課題発見】		②【伝え合い】				②【伝え合い】		
主					③【自主性】	②【仲間との協力】			
0	1 チーム毎に集合 ・ 健康観察 2 (体ほぐし運動) チーム体操・リズム運動 4 集合整列 5 本時の確認								
10	6 夏期休暇の振り返り ・マイ運動プログラムを見ながら、運動に取り組んだことを振り返る。	6 体の動きを高める運動 【体の柔らかさを高めるための運動】 ・ストレッチの方法 (静的ストレッチと動的ストレッチ)	6 体の動きを高める運動 【巧みな動きを高めるための運動】 ・用具を使った運動 (新聞紙・タオルなど)	6 体の動きを高める運動 【力強い動きを高めるための運動】 ・腹筋、背筋、腕立ての正しい行い方	6 体の動きを高める運動 【動きを持続する能力を高めるための運動】 ・有酸素系の運動 ・サーキットトレーニング	6 生活に応じた運動を考える (マイ運動プログラムの作成) ・運動強度の低中高からパランス良く選択し、計画を作成する ・計画の実施	6 生活に応じた運動を考える (マイ運動プログラムの作成) ・前時に立てた計画の振り返り ・ペアで考えた運動の発表 ・意見交換	6 生活に応じた運動を考える	6 本単元のまとめ ・体づくり運動のまとめ ・卒業後の健康保持 ・体重カレンダーの付け方
20	7 友だちの運動マイプログラムを見比べながら意見交換を行う。								
30	8 長期休暇中の自分自身の課題を見つけ、これからの授業の目標を決める。								
40	9 学習カード④に記入する。	7 学習カード⑤に記入する。	7 学習カード⑥に記入する。	7 学習カード⑦に記入する。	7 学習カード⑧に記入する。	7 学習カード⑨に記入する。	7 学習カード⑩に記入する。	7 学習カード⑩に記入する。	
45	10 次時の確認・連絡	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	8 振り返り・片付け	
評価	③【観察】	②【学習カード・観察】	②【学習カード・観察】	①【観察】	③【観察】	②【学習カード】	②【学習カード・観察】	②【観察】	
思	①【学習カード】								
主									
準備物	・体育ファイル ・学習カード④ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑤ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑥ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑦ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑧ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑨ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑩ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	・体育ファイル ・学習カード⑩ ・チーム健康観察簿 ・ホワイトボード・掲示物	
保健分野	自己評価ボード(Cグループ) ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	・運動に必要な用具 ・BGM・タイマー	
体育理論	けがや疾病の予防	安全な行い方		心身の機能の発達に関すること		文化としてのスポーツの意義		ストレッチへの対処	



6 本時の学習 (14/15)

(1) 本時の目標

- A . . . 考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。
- B . . . 自分で考えたことを仲間に伝えることができる。
- C . . . 教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価項目

- A . . . 判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。
- B . . . 自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。
- C . . . 教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。

(思考・判断・表現)

7 学習指導過程

時間	学習内容及び活動	チーム別学習活動及び教師の支援			資料・準備	
		(オレンジ)	(ピンク)	(グリーン) (ブルー)		
は じ め 15	1 チーム毎に集合し、出席確認・健康観察・チーム体操・リズム運動を行う。	チーム毎に円になり集合する。 ・チームリーダーを中心として、チームの場所に集合させる。 健康観察係を中心に健康観察を行う。 ・健康観察を行うことで、自分と仲間の健康状態をチームで把握させる。 ・健康観察係は、T1に報告をし、体調の悪い生徒は、個別に確認を行う。	健康観察を終えたチームからチーム体操、リズム体操を始める。	健康観察係 健康観察カード 鉛筆（4本） 椅子（2脚）	チーム体操ボード CD CDラジカセ タイマー 椅子（2脚）	
	2 整列をする。	聴覚に障がいのある生徒に手話通訳と補聴援助システムを装着すること で、情報保証を行う。 (T1・T7)	・関節の可動範囲が狭い生徒については、無理のないよう教師と一緒に 行く。(T8)	・細かな体調管理を必要とする生徒には、無理のない程度で参加させる。 (T10)		グループでの参加が難しい生徒には、個別に対応する。 (T11)
	3 はじめの挨拶をする。	チーム毎に整列をする。 ・キャプテンにチームを整列させることで、リーダーとしての意識をもたせる。(T1) ・キャプテンを中心に生徒同士で集合・整列する様子を見守り、出来ていたら称賛する。(T2～T10)	本時の学習活動中 T2 以下は、担当チームや生徒について、健康や安全に配慮しながら一緒に活動し、声を少なくする等して、生徒の実態に合わせて主体的な活動ができるよう個別の支援を行う。	椅子（2脚）		
		号令に合わせて始めの挨拶をする。 ・礼に合わせて T1 が「お願いします。1・2・3」と声かけをすることで、分離礼をすることを意識させる。 (T1)				

	<p>4 本時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールの確認</li> <li>・目標の確認</li> </ul>	<p>本時のスケジュールや目標を聞き、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習スケジュールや目標を視覚的に示し簡潔に説明すること、学習に見通しをもたせる。(T1)</li> <li>・個別に支援が必要な生徒には、簡潔に示したミニスケジュールを提示し、学習の見通しをもたせる。(T8・T10)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>本時の目標「休日に自宅でできる運動(運動マイプログラム)を発表しよう！」</b></p>	<p>ホワイトボード 評価ボード ミニスケジュール ル</p>						
<p>な</p>	<p>5 ペア毎に分かれ、前時までの振り返りを行う。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%; text-align: center;">【Aグループ】</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">【Bグループ】</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">【Cグループ】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に、前時までに考えた体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中からそれぞれ1種目ずつ選択させる。</li> <li>・確認が必要なグループは、ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きの動きの振り返りを行わせる。</li> <li>・生徒からの発問があった場合は、発問に答えたり助言したりする。(T2)</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> <li>・巡回しながら助言を行う。(T3・T4・T5・T6)</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に、5分以内でできる運動を2種目考える。</li> <li>・ペア毎に毎に教師がつき、助言を行う。(T7～T10)</li> <li>・教師と一緒に前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	【Aグループ】	【Bグループ】	【Cグループ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に、前時までに考えた体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中からそれぞれ1種目ずつ選択させる。</li> <li>・確認が必要なグループは、ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きの動きの振り返りを行わせる。</li> <li>・生徒からの発問があった場合は、発問に答えたり助言したりする。(T2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> <li>・巡回しながら助言を行う。(T3・T4・T5・T6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に、5分以内でできる運動を2種目考える。</li> <li>・ペア毎に毎に教師がつき、助言を行う。(T7～T10)</li> <li>・教師と一緒に前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> </ul>	<p>学習カード⑨ ひなたプログラム ム(動画集・画像集) タブレット タイマー</p>
【Aグループ】	【Bグループ】	【Cグループ】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に、前時までに考えた体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中からそれぞれ1種目ずつ選択させる。</li> <li>・確認が必要なグループは、ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きの動きの振り返りを行わせる。</li> <li>・生徒からの発問があった場合は、発問に答えたり助言したりする。(T2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひなたプログラムや動画集を見ながら、前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> <li>・巡回しながら助言を行う。(T3・T4・T5・T6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に、5分以内でできる運動を2種目考える。</li> <li>・ペア毎に毎に教師がつき、助言を行う。(T7～T10)</li> <li>・教師と一緒に前時までに考えた動きを行うことで振り返らせる。</li> </ul>							
<p>か</p>	<p>6 ペア同士で、考えた運動の発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するペアを替え、繰り返し発表する。</li> </ul>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を発表する。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表しながら、グループの友だちに良い点や改善点などを付箋に記録させる。(T2)</li> <li>・付箋に書かせることで、気づきをすぐに伝えられるようにする。(T2)</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を教師と一緒に発表する。</li> <li>・発表した運動を教師と一緒に行う。(T7～T10)</li> <li>・生徒の発言を記録する。(T7～T10)</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">・1つのペアが発表した毎に、観察していたペアが気づいたことを発表したり、発問したりして生徒同士で話し合い活動を行う時間を設定する。(T1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表しながら、グループの友だちに良い点や改善点などを付箋に記録させる。(T2)</li> <li>・付箋に書かせることで、気づきをすぐに伝えられるようにする。(T2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を教師と一緒に発表する。</li> <li>・発表した運動を教師と一緒に行う。(T7～T10)</li> <li>・生徒の発言を記録する。(T7～T10)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表しながら、グループの友だちに良い点や改善点などを付箋に記録させる。(T2)</li> <li>・付箋に書かせることで、気づきをすぐに伝えられるようにする。(T2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア毎に考えた運動を教師と一緒に発表する。</li> <li>・発表した運動を教師と一緒に行う。(T7～T10)</li> <li>・生徒の発言を記録する。(T7～T10)</li> </ul>							

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを活用させることで、ひなたプログラムに書かれた運動強度(☆の数)を分かりやすく伝えさせる。</li> <li>・友だちが考えた運動を時間がくるまで一緒に行わせる。(T2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが考えた運動を時間がくるまで一緒に行わせる。(T3～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが考えた運動を時間がくるまで一緒に行わせる。(T7～T10)</li> </ul>		
ま	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード記入</li> <li>・自己評価をする</li> <li>・活動を振り返る</li> </ul>	<p>学習カードを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの発問があった場合は、発問に答えたり助言したりする。(T2)</li> </ul>	<p>学習カードをボードに貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回しながら助言を行う。(T3・T4・T5・T6)</li> </ul>	<p>個人の評価をボードに貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標をボード視覚的に示すことで、目標に対しての評価について自身で振り返りかえさせる。(T7～T10)</li> <li>・特に活動への取り組みなどが良かった生徒を紹介し、その生徒の評価欄に花丸マークを貼らせる。(T7～T10)</li> </ul>	<p>学習カード⑨ C グループ評価ボード</p>
と	<p>8 次時の予告をする。</p>	<p>チーム毎に集合・整列をする。(オレンジ)(グリーン)(ピンク)(ブルー)</p>	<p>チーム毎に集合・整列をする。(オレンジ)(グリーン)(ピンク)(ブルー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプテンにチームを整列させることで、リーダーとしての意識をもたせる。(T1)</li> <li>・キャプテンを中心に生徒たち自身で集合・整列させることで、チームで活動することを意識付ける。(T1)</li> </ul>	<p>号令に合わせて終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で元氣よく挨拶をすることや礼に合わせてT1が「1・2・3」と声かけをすることで、分離礼をすることを意識させる。(T1)</li> </ul>	
め	<p>9 終わりの挨拶をする。</p>	<p>号令に合わせて終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で元氣よく挨拶をすることや礼に合わせてT1が「1・2・3」と声かけをすることで、分離礼をすることを意識させる。(T1)</li> </ul>	<p>号令に合わせて終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で元氣よく挨拶をすることや礼に合わせてT1が「1・2・3」と声かけをすることで、分離礼をすることを意識させる。(T1)</li> </ul>	<p>号令に合わせて終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で元氣よく挨拶をすることや礼に合わせてT1が「1・2・3」と声かけをすることで、分離礼をすることを意識させる。(T1)</li> </ul>	

## 8 本単元に関する生徒の実態及び本時の目標

【評価規準】◎・・・よくできた ○・・・できた △・・・もう少し

氏名 性別	単元に関する生徒の実態	本時の目標	評価項目	評価
A (男)	運動は好きで積極的だが、言葉数が少なく、自分の思いを相手に伝えるまでに時間を要する。工夫して考えをまとめることができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
B (男)	運動が好きで知識も多く積極的であるが、体調により見学をすることが多い。準備や片付け等、自分ができることを献身的に行うことができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
C (男)	運動が好きで能力が高い反面、口数は少なく、リーダーシップをとることに課題が残る。目的や目標を意識して学習に取り組むことができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
D (女)	体を動かすことは得意ではないが、自信のもてる活動には、取り組むことができる。周囲の気配りなどを積極的に行うことができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
E (女)	不安や体の痛みを訴えることがあるが、傾聴することで、落ち着いて授業に参加することができる。自分の意見の発表をすることができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
F (男)	運動が好きで、運動能力も高い。積極的に活動に取り組むことができる。興味が高い反面、教師の話聞き漏らしてしまうことが課題である。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
G (男)	運動が好きで、積極的に取り組むことができる。言葉数が少なく、自ら発表することが課題である。目標や課題を理解し、考えることができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
H (女)	難聴のため、話し合い活動に消極的などところがある。運動は苦手だが、目標や目的を意識して活動に参加することができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	
I (女)	運動が好きで積極的に取り組むことができる。分からないことがあれば、教師に質問し、解決に導くことができる。	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 (思・判・表②)	考えたことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができたか。 (思・判・表②)	

J (男)	準備や片付けなど積極的に行い、理解力も高く、話し合い活動で、まとめ役になった際は、友だちの話をまとめ発表することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
K (女)	運動が苦手で消極的である。友だちと一緒に活動を促すことで取り組もうとすることができる。課題について理解し、自分で考えることができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
L (男)	運動制限があり、参加できない活動があるものの、話し合い活動には、積極的に参加することができる。健康や運動への興味関心も高い。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
M (男)	運動が得意で何事にも積極的に取り組むことができるが、夢中になるあまり、周りが見えずに粗暴な行動をとってしまうことがある。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
N (女)	最近になって運動制限が解除されたことから、運動経験が浅い。教師からの声かけを行うことで活動にスムーズに参加することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
O (男)	口頭のみでの説明では理解に時間を要するが、絵カードや写真を提示することで活動を理解し、取り組める場面がある。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
P (女)	運動が好きで、何事にも積極的に参加することができる。自己の健康に関する意識も高く、考えた意見を発表することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
Q (女)	集団による運動の経験が少ないために、集団活動に苦手さがある。教師の支援を減らしていくことで生徒同士の関わりを増やしていく。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
R (男)	教師の話を最後まで聞くことが難しい。絵カードを提示することで理解を深めることができる。突発的な行動があり、柔軟な声かけが必要である。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
S (男)	運動・スポーツが好きで意欲的に取り組むことができる。力加減が難しく、教師が模範を示すことで理解を深めることができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)

T (女)	運動が苦手で、動きも緩慢なことがある。同性の友だちや教師が促すことで活動に参加することができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
U (女)	運動が苦手で消極的であるが、教師が言葉かけをすることで授業に参加することができる。友だちとのコミュニケーションも苦手意識がある。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
V (男)	運動や友だちとのコミュニケーションが苦手で、活動に参加するまでに時間を要する。教師が声かけをすることで参加することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
W (男)	運動が好きで、何事にも積極的に取り組むことができる。絵カードを使いながら説明することで理解を深めることができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
X (男)	体力はあるが、巧緻性が低い。目標や目的を口頭での説明では理解に時間を要するが、絵カードや写真を提示することで取り組める場面が多い。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
Y (男)	運動は苦手だが、話し合い活動に積極的に参加することができる。自己の健康についての意識は低いが、考えた意見を発表することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
Z (男)	体育学習に意欲的に参加することができる。複雑な指示や説明に混乱してしまうことがあるが、端的な説明をすることで安心して活動できる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
A1 (女)	運動することや友だちが好きで意欲的に取り組むことができる。行いたい活動を選択し、考えたことを発表することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
B1 (男)	運動が好きで、自己の体力や健康に対する意識も高い。与えられた課題を考えることができる。友だちと楽しく活動することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)
C1 (女)	運動に対して嫌悪感があり、個別対応が必要なことがある。事前に活動内容を伝えることでスムーズに参加することができることがある。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。(思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。(思・判・表②)

D1 (男)	見通しをもたせることで、落ち着いて活動することができる。リズムカルな動きを好み、友だちの前でも恥ずかしがらずに発表することができる。	自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	自分で考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
E1 (男)	運動への興味関心は高く、体調に気をつけながら活動に参加することができる。目標や目的を意識して活動に取り組むことができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
F1 (男)	歩行に不安定さがあるため、常時教師の支援を要する。体を動かす際には、教師の支援により安定した動きをとることができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
G1 (男)	運動に対して苦手意識があり消極的なため、肯定的な声かけや称賛を送ることで、活動に参加することができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
H1 (女)	体調により一対一での支援が常時必要である。教師と一緒にストレッチや体をほぐすことで笑顔が見られる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
I1 (男)	転倒防止のため、教師の見守りや声かけが必要である。運動経験も浅く、興味の高い活動をすることで体力の向上を図っていく。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
J1 (男)	補聴器を装用しているが、情報を正しく聴き取ることが困難であるため手話通訳などの情報保障を行っている。活動には、大変意欲的である。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
K1 (男)	生徒同士の活動は、消極的であるが、肯定的な声かけや称賛を送ることで、活動に参加することができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
L1 (女)	慣れない環境や集団が苦手のため、活動内容を事前に伝えることで見通しをもって活動することができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)
M1 (男)	集団での活動に参加することが難しい。距離を置き、体育館の端や離れた場所で教師と一緒に活動することができる。	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができる。 (思・判・表②)	教師と一緒に考えたことを仲間に伝えることができたか。 (思・判・表②)